



## 肛門<sup>のう</sup>嚢<sup>えん</sup>炎<sup>えん</sup>ってなに?

どんな  
病気?

肛門の両側にある袋状の分泌腺に炎症が起こる病気。

通常、肛門嚢を包む肛門括約筋という筋肉が、ウンチをしたときに収縮し、肛門嚢を圧迫して分泌物が排出されます。しかし、何らかの原因で肛門嚢内の分泌物が排出できずにとまり、炎症を起こします。進行すると、肛門嚢が破裂して皮膚に穴があき、膿がもれ出ることも。



おもな  
原因

肛門嚢内にたまった分泌物に  
細菌感染が起こります。

こんな犬は注意して

### ●慢性的な下痢がある

下痢を起こしていると、肛門のまわりがウンチで汚れやすいことと、肛門括約筋の締めりが悪くなることから、ウンチの細菌が侵入しやすくなります。

### ●シニア犬

シニア期に入ると、肛門嚢を包んでいる肛門括約筋の力が弱くなります。そのため、外部から細菌が侵入しやすくなります。

### ●小型犬

小型犬は、肛門括約筋の力が弱く、分泌物がたまりやすい傾向があるようです。トイ・プードルやミニチュア・ダックスフンド、チワワなどによく見られます。

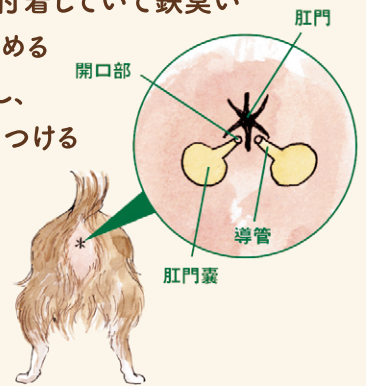
### ●太っている犬

太っていると、肛門括約筋が締めりにくい傾向があり、肥満は肛門嚢炎を起こす危険因子のひとつです。

おもな  
症状

肛門をなめる、  
ニオイがきついなどが  
気づききっかけに。

- お尻まわりを触られるのを嫌がる
- 肛門嚢から出た分泌物に血が混じる
- 犬の寝床に血が付着していて鉄臭い
- 肛門のまわりをなめる
- 後ろ足を前に出し、  
床にお尻をこすりつける  
など



治療

肛門嚢炎の治療には、  
内科治療と外科治療の  
2つがあります。

肛門嚢が破裂していなければ、内科治療を行います。抗生剤や消炎剤を服用し、腫れや痛みに対処します。また、犬が嫌がらない場合は、肛門嚢の開口部から細いカテーテルを入れ、直接内部に薬を注入することも。一方、肛門嚢が破裂している場合は、洗浄してきれいにし、傷を消毒して自然にふさがるのを待ちます。ただし、肛門嚢の破裂を2回以上繰り返す場合は、その後の再発のリスクを考えて、外科手術が推奨されることもあります。

予防法

まずは、お尻まわりを  
清潔に保つことが大切。

ウンチがついていたら、ウエットティッシュなどの濡れたものでやさしく拭き取りましょう。ウンチが毛につきやすいなら、肛門周囲の毛をカットしてみてもよいでしょう。

排便時や興奮したとき、吠えたときなど、体に力が入った際に肛門嚢の内容物は自然に排出されます。そのため、基本的には肛門嚢絞りをする必要はありませんが、小型犬やシニア犬、分泌物の粘度が高いタイプの犬など、自力で排出できない場合は、動物病院で1〜2カ月に1回程度絞ってもらいましょう。

いぬに多い病気、そこが知りたい! は「いぬのきもち」で連載中!

●こちらは、掲載した記事を再編集したものです。

アニコム損保ご契約者が  
マイページから定期購読を申込むと  
**2号<sup>(2ヶ月分)</sup>無料!!**